

# リスニングスキルの TOEIC スコアレンジ別 比較と考察

— IPA スクリプトによるスキル分析から見えてくるもの —

Study of Listening Skill Development  
Compared by TOEIC Score Range  
— Analysis of Listening Skill by Using IPA Script —

山科 美智子  
YAMASHINA Michiko

Listening skills are hard to improve for ESL students because English sounds, phonemes, and syllable structures are different from those in their mother tongue. Steven Pinker claims that one word runs into the next word seamlessly in speech; hence, it is impossible to tell where one word ends and the next begins when we listen to speech in a foreign language. On top of this, Japanese and English have totally different sound systems, which increases the difficulties that Japanese speakers have in understanding English speech. In this paper, I researched to what degree students understand the contents of an English conversation or announcement, and what words they can comprehend correctly. I collected data from different TOEIC score groups, with ranges in the 300s, 400s, 500s, and 600s. By comparing the results for these score-range groups, I explore some of the core issues students face in understanding spoken English in order to find some possible approaches for helping them to improve their listening skills.

## 1. はじめに

地球上に6800以上存在するといわれる多種多様な言語を、単語の音韻、文法や語彙の類似に基づいて分析し、歴史的な言語の成り立ちを辿っていくと、共通の祖先言語、つまり祖語“Proto-language”によって分類することができる。分類体系の違いにもよるが、分類されグループ化された語族 (Language family) の種類は180以上あるといわれる。その最も大きなグループの一つである「インド・ヨーロッパ語族」“Indo-European language family”には、英語、ヒンディー語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、ドイツ語、フランス語、イタリア語など100を超える言語が含まれている。英語は、ドイツ語やオランダ語とともに、インド・ヨーロッパ語族の中のゲルマン語派、西ゲルマン語に分類される。一方日本語は、日本語族“Japonic language family”として分類され、唯一琉球語が同じグループに分類されるものの、どの語族にも属さない独立した言語であるといわれる。つまり、世界の言語の中に共通の祖先をもたず、独自に発生し発達してきた言語なのである。

こういった言語の独自性や非類似性は、日本人の英語習得にどのような影響をもたらしているのだろうか？英語と同じ語族の母国語を話す学習者が英語を習得するのに比べ、まったく共通項を持たない日本語を母国語とする日本人学習者が英語を習得するためには、乗り越えなければいけない壁が幾重にもあることは想像に難くない。リスニングにおいては、日本語とちがう音韻や音節の聞き取りと理解、スピーキングにおいては、日本語にない音の発音やイントネーション、リズムの理解と発話、リーディングにおいては、文法や語彙の習得、ライティングでは、日本語と違う文法にのっかって表現したいことを記述するスキルなどがあげられる。

ETS が発表している2013年度の TOEIC の国別スコアによると、日本は、リスニング平均 283/495点、リーディング平均 229/495点で、48か国中40位という結果が出ている。これは、英語とまったく違う言語システムを持つ日本人が、英語学習にハンディを負っているせいなのであるだろうか？日本人はこの言語システムの隔たりをどのように克服していくべきなのであるだろうか？

日本人は比較的リーディングやライティングのほうがリスニングやスピーキングより得意だと言われる。リーディングやライティングにおいては、単語の並びを目で確認し、英語文法にあてはめながら読んだり書いたりする時間的余裕と視覚での確認が可能だが、リスニングやスピーキングは、一瞬で流れ去る音をとらえて理解し、それに関して反応し発話していかなければいけない。このため、リスニングとスピーキングが苦手だという学習者は多い。特にコミュニケーション

ンでは、リスニングのスキルが重要になってくる。相手の言うことが聞き取れないとコミュニケーションが成立しないが、リスニングが苦手なために、コミュニケーションそのものに支障をきたすケースが多い。

Steven Pinker (2000) は *The Language Instinct, How the Mind Creates Language* の中でこう述べている。

In the speech sound wave, one word runs into the next seamlessly; there are no little silences between spoken words the way there are white spaces between written words. We simply hallucinate word boundaries when we reach the edge of a stretch of sound that matches some entry in our mental dictionary. This becomes apparent when we listen to speech in a foreign language: it is impossible to tell where one word ends and the next begins.<sup>1</sup>

書かれた英語のように単語と単語の間にスペースがあるわけではなく、一連の音として切れ目なくつながっていくスピーチを聞いて、どこが単語の切れ目なのかさえ把握するのは、初期の言語学習者には難しい。私たちが初めて耳にする言語を聞いたとき、意味不明の音の連続と認識するのと同じである。それに加え、一つ一つの単語は、辞書の発音記号の通りに発音されるのではなく、後ろに続く単語の音によって前の単語の語尾の発音が影響を受けたり、前の単語の語尾と続けて発音することにより、後ろの単語の語頭の音が変わったりする。そのように変化しながら一連のつながった音として発音される英語を聞いて、学習者は具体的にどの音を聞き取り、どう全体の内容を理解しているのだろうか？

この論文では、TOEIC の会話文とアナウンスの二つの素材を使用し、学生の TOEIC スコアレンジ別に聞き取れている音の違いや内容把握の状況を比較した。各スコアレンジ別の学生の音韻理解を分析したうえで、リスニングの障害になっている発音をリストアップし、リスニングスキル向上へのヒントを探っていく。

リスニングの教材としては、TOEIC のリスニング問題から、Part3 会話問題、Part4 アナウンス問題を選んだ。理由としては、ネイティブライクな自然な会話やアナウンスであり、かつ長さが調査に相当であること、そして、学生のリスニング向上への関心が高いクラスを調査対象とすること、という2つの理由からである。

## 2. 日本人が聞きにくい音

調査結果の考察をする前に、一般的に日本人が聞き取りにくいとされる音を挙げてみたい。

### 2.1. 日本人が聞き取りにくい母音

日本語には5つの母音しか存在しない。この母音を IPA 発音記号に置き換えると以下のようになる。/i //e //a// u //o/

しかし、英語には、長母音、短母音、二重母音を合わせ、一般的に18の母音が存在する。そして、イギリス英語やオーストラリア英語、そして各地方のアクセントによって母音の数も異なる。一般的な英語の母音を IPA の発音記号で表記すると以下のようになる。

/i: //ɪ //u: //ʊ// ε //ɜ: //ə// ɔ: //æ// ʌ //ɑ: //eɪ//aɪ//ɔɪ//aʊ//oʊ//ɪə//eə/

人間の耳は、生まれたときはあらゆる音を聞き取る能力を持っているが、その後母語の持つ音以外の音を聞き取り判別する能力を失っていく。5つの母音しか発音されない日本語に慣れた耳には18の母音を聞き取り判別することは至難の業である。

### 2.2. 日本人が聞き取りにくい子音

英語の鼻音/m//n//ng/や、有声か無声かで区別しなければいけない下記の表のような子音は日本人にとって区別しにくい音である。

	Voiced	Non Voiced
lips	b	p
Tongue tip	d	t
Tongue body	g	k

やはり日本人が区別しにくい音に、/r/と/l/がある。日本語の発音は、英語の/r/と/l/の間のような発音をして両者を区別しないが、英語のネイティブスピーカーにとってはこの二つの音は全く異なる音として認識される。Steven Pinker は前掲書で、日本人の/r/と/l/の発音に関してこんなエピソードを書いている。

An inventory of phonemes is one of the things that gives a language its characteristic sound pattern. For example, Japanese is famous for not

distinguishing r from l. When I arrived in Japan on November 4, 1992, the linguist Masaki Yamanashi greeted me with a twinkle and said, “In Japan, we have been very interested in Clinton’s erection.” (p168)<sup>1</sup>

1992年11月3日に大統領選挙が行われ、ビル・クリントンが第42代大統領に選出された。時差を考えると、日本では11月4日であったはずだ。つまり、まさにこの日に Steven Pinker は日本を訪れていて、言語学者の Masaki Yamanashi に会ったのである。Masaki Yamanashi はこの絶妙なタイミングで、/l/と/r/を区別できない日本人の発音を皮肉って、“election”と“erection”をかけたジョークを述べたのだ。

さらに、英語は音節構造が日本語とは異なる。日本語は「子音+母音」が一つのセットとなって音節が構成されるが、英語には子音が連続して発音される“a cluster of consonants”が存在する。Steven Pinker は前掲書の中でこう述べている。

The rules generating syllables define legal and illegal kinds of words in a language. In English an onset can consist of a cluster of consonants, like flit, thrive, and spring, as long as they follow certain restrictions. ( For example, vlit and sring are impossible.) A rime can consist of a vowel followed by a consonant or certain clusters of consonants, as in toast, lift, and sixths. In Japanese, in constant, an onset can have only a single consonant and a rime must be a bare vowel; hence strawberry ice cream is translated as sutoroberi aisukurimo, girlfriend as garufurendo.<sup>1</sup>

以上のような英語と日本語の発音の違いについても注目して調査を進めていく。

### 3. 調査実施概要

#### 3.1 対象者

TOEIC 試験の対策クラスを受講する関東在住の短期大学生46人

#### 3.2 調査時期

2016年6月

### 3.3 使用教材

TOEIC テスト新公式問題集 Vol.6

#### ① Test1 Part3 p.20 Q56-58

イギリス人の女性とカナダ人の男性の会話である。会話のシチュエーションは日常的な設定である。会話の中に使われている単語に難解なものではなく、すべてどのクラスの学生もすでに学習し知っているはずの単語である。

#### ② Test1 Part4 p.34 Q98-100

アメリカ人女性のアナウンスである。会話のシチュエーションは、会社の新人研修であるため、学生にとっては、少々想像しにくい設定となっている。アナウンスの中に使われている単語の中で、**inspect, defective, discarded** の3つの単語は難易度が高いと思われるが、そのほかの単語に特に難解なものはない。

### 3.4 調査内容

調査は2段階に分ける。

#### 3.4.1. 内容の聞き取り

目的：会話やアナウンスを全体としてどれくらい聞き取れているか調査する。

TOEIC 700点を目指すクラス A 12人、TOEIC 600点を目指すクラス B 14人、TOEIC 500点を  
目指すクラス C 20人のクラスで、上記 TOEIC のリスニング問題①、②を一度だけ聞く。最初  
に、自分が聞き取れた内容を用紙に記入し、そのあと、3~4人ずつのチームを作り、チームごと  
に聞き取れた情報や内容を話し合い、ホワイトボードにグループごとに記述する。その際、リス  
ニングのモチベーションを高めるため、チームに自分たちで名前を付けて、チーム対抗でリスニ  
ングの正確さを競うゲーム形式を採用した。

#### 3.4.2. ディクテーション

目的：聞き取れなかった音や単語、違う音だと理解した単語を調査し、スコアグループごとに  
結果を検証する。

前述のアクティビティーのあと、同じスクリプトの CD を流し、ディクテーション用紙に単語を  
聞き取って埋める形で各自ディクテーションをした。上記の3つのクラスから、TOEIC スコア600  
点台6人、500点台4人、400点台10人、300点台8人の学生からサンプルをとり、聞き取れなかつ

た単語やフレーズをリストアップし、分析していく。サンプル数は、TOEIC 試験のスコアによりばらつきがあるため、誤答数はパーセンテージで示すことにする。

TOEIC 600点台の学生はクラス A、TOEIC 500, 400点台の学生はクラス B か C、TOEIC 300点台の学生はクラス C に所属している。

## 4. 調査結果

### 4.1. Part3 会話問題の内容聞き取り調査

まず Part3の会話を1回聞いて、どのように内容を理解したかを調査した。調査に使ったスクリプトと、学生のグループごとに把握した内容を下記に示す。

#### 4.1.1. スクリプト(Part3, Test1, Question 56-58)

(W-Br) Excuse me. I'm here for my lunch order. It was chicken soup and a mixed vegetable salad.

(M-Ca) Hmm...I don't have a record of that order. Did you call us or did you make your order online?

(W-Br) I called about an hour ago. I have the number here on my mobile phone. It's 555-0198, right?

(M-Ca) No, that's our Sullivan Street location. They're just a few blocks away. Follow this street to Sullivan then turn left at the intersection. It's about halfway down the block.

#### 4.1.2. スクリプト和訳

(女性—イギリス) すみません。私の昼食の注文品を取りに来ました。チキンスープとミックス野菜サラダです。

(男性—カナダ) ええと。。。そうした注文履歴はございません。当店にお電話されましたか、それともオンラインで注文なさいましたか。

(女性—イギリス) 1時間ほど前に電話しました。私の携帯電話にこの店の番号があります。555-0198ですよ？

(男性—カナダ) いいえ、それは Sullivan 通りの店舗です。ほんの数ブロック先にあります。

この通りを Sullivan 通りまで行って、交差点を左に曲がってください。そこから半ブロックほどいったところです。

#### 4.1.3. 内容聞き取りの結果

以下の記述は各グループがホワイトボードに書いたままを記している。間違っている聞き取り内容には下線をひいた。

#### C クラス (TOEIC 500点をを目指すクラス) 結果

表1. Part3の聞き取り問題における C クラスのチームごとの記述

チーム名	聞き取った内容 (下線は間違っているもの)
チームお弁当	ランチを予約していた (チキンスープ、ミックスベジタブルサラダ) オンラインで予約しましたか? いや、電話です。555... いや～、予約されてないですね～。提供できません～。別の店に行ってみて。
チームバーガー	ミックスベジタブルサラダ、チキンスープを <u>出前で頼んだ</u> 。 電話番号を言ったが、場所がわからない。
チームメガネ	ランチを注文した (チキンスープ、サラダ) 電話先が違った。正しい道教えて。 電話番号 555-0198
チームコンタクト	ランチの注文 ミックスサラダ、チキンスープ 出前を取ろうとしたけどお店の番号を間違えた。
チームカラフル	ランチ注文 サラダとチキンスープ 何か足りなかった 555-〇×△×←家に届ける
チームデニム	ランチの注文、チキンスープ、サラダ 場所がわからない

#### C クラスの聞き取りに関する考察

- ・チームによって聞き取りに差があるが、ランチの注文で、チキンスープとサラダを注文した、というところまでは、どのチームも理解している。これは、自分たちがよく経験する日常的なシーンであることと、lunch order, chicken soup, salad というフレーズや単語が聞き取りやすく、この3つのフレーズさえ聞き取れば、内容が容易に推測できるためであると思われる。



しかし、話が進むにつれて聞き取れない部分が積み重なって行って、聞き取れたいくつかの単語だけで推測する形となり、スクリプトとは違うストーリーになっているチームが多い。最後の、男性が別の店舗の場所を説明している部分は詳細が聞き取れていない。

- ・チームお弁当は大体の流れや内容を正確に聞き取っている。ただ最後の男性のせりふ“**No, that’s our Sullivan Street location. They’re just a few blocks away.**”の意味が理解されていない。特に“**our**”が聞き取れず、「この店の別の系列店舗に予約されている」という認識ができないでいる。
- ・チームバーガーは、**record, order, the number, mobile phone, location**, などの単語は聞き取れているが、流れがつかめておらず、出前で頼んで電話番号を言ったが、届ける場所がわからない、という理解になっている。
- ・チームメガネは、ランチを注文したが、電話先が違った、という理解になっている。これは、“**It’s 555-0198, right? No, that’s Sullivan Street location**”を聞き取っていることが伺える。最後の場所の説明の部分は、詳しくは聞き取れていないが、場所の説明だということは理解している。
- ・チームコンタクトは、「出前を取ろうとしたけれど、お店の番号を間違えた」という理解になっている。これは、“**Excuse me. I’m here for my lunch order.**”の **here** が聞き取れておらず、注文したお店に来ている、という理解ができていない。電話番号や、**Hmm..., No,** などから、「お店の番号を間違えて、出前が取れない」という推察になっている。
- ・チームカラフルは、ランチの注文までは聞き取れているが、何かが足りなかったせいで、電話番号を聞いて、そこに届ける、というストーリーを作っている。
- ・チームデニムは、最後に場所を説明していることや、**location** という単語は聞き取れているが、全体の流れがつかめていない。

## B クラス (TOEIC 600点を目指すクラス) 結果

表2. Part3の聞き取り問題における B クラスのチームごとの記述

チーム名	聞き取った内容 (下線は間違っているもの)
チームみそ	<b>W</b> ランチオーダーをした。チキンスープ、ミックスベジタブルサラダ <b>M</b> 注文履歴がないよ <b>W</b> 携帯にあなたの店の電話番号が残っている！ 555-018 <b>M</b> それは別の店舗だよ「道案内」

チームしょうゆ	<p>W すみません、ランチの注文でチキンスープとベジタブルサラダを頼みました。</p> <p>M 記録にないです。オンラインと電話とどちらでしましたか？</p> <p>W 電話です。私の電話は555-0198 です。</p> <p>M 記録にないです。</p> <p>W <u>そしたら別のお店を紹介します。</u></p>
チーム塩	<p>ランチの注文（レストランで）→<u>届けて</u>（チキンスープとミックスベジタブルサラダ）</p> <p><u>電話番号と道案内を言う。</u></p>
チームとんこつ	<p>女の人がランチでチキンスープとミックスベジタブルを食べたい。</p> <p><u>男登場</u></p> <p><u>店を教えてもらった。（店番号と席順）</u></p>

B クラスの聞き取りに関する考察

- ・チームみそは、全体的に正しく聞き取って理解している。会話の順序（女性、男性、女性、男性）もきちんと把握している。
- ・チームしょうゆは、最後の男性のセリフを女性が話したことになっていて、最後の部分が理解されていないが、そのほかは聞き取れている。
- ・チーム塩は、ランチの注文を家に届けてもらう、というストーリーになってしまっている。「注文の履歴がない」という部分が聞き取れず、電話番号と場所の説明から、それが届け先の情報であると推察してしまっている。
- ・チームとんこつは、最初の女性のせりふ以外はあまり聞き取れていない。男性にお店を教えてもらった、という部分は正しいが、店番号や席順は出てこない。

A クラス（TOEIC 700点を目指すクラス）結果

表3. Part3の聞き取り問題における A クラスのチームごとの記述

チーム名	聞き取った内容（下線は間違っているもの）
チームエアライン	<p>女のお客さんと男のお店の人との会話 <b>lunch order</b> の件</p> <p>チキンスープとミックスベジタブルサラダを注文したけど男の人は聞いてない。</p> <p>女の人は1時間前に注文した。</p> <p>電話番号を確認したら、違うブロックの店</p> <p>男の人がその店への行き方を教えた。まっすぐ行って交差点を左に行けばある。</p>
チーム女子力	<p>1時間前にランチオーダー→<b>mix vegetables, chicken soup,</b> →call→届いていない（<u>家</u>に）→住所が違う、道案内していた（2blocks～）</p>

チーム江戸っ子	Customer 来店→talk with 店員→Lunch box 注文、届いてない→店 online or call→ 女 call number 5550198→店別のお店→道を教えた (intersection)
チームビビンバ	女の方はランチオーダーしている、online で注文して 注文する店を間違えたから、注文届いていない (野菜スープ) 店に電話をかけて、店員は注文の店を間違えた。場所の住所を伝えた。 Number: 555-019

#### A クラスの聞き取りに関する考察

- ・チームエアラインは全体的に情報を正確にかつ詳細まで聞き取っている。1時間前に注文したことや、別の店舗への行き方も聞き取れている。
- ・チーム女子力は、オーダーしたものが家に届いていないため、道案内をするというストーリーになってしまっている。“I don’t have a record of that order.”を、オーダーしたものが届いていない、という理解になり、そこから違うストーリーを推察したようである。“It’s about halfway down the block.”も2 blocks と理解してしまっている。
- ・チーム江戸っ子は、あいまいではあるが、全体としての流れは正しく聞き取っている。
- ・チームビビンバは、情報が混乱してしまったようである。“Did you call us or did you make your order online?” “I called about an hour ago.”の部分がしっかり聞き取れておらず、online 注文をしたことになっている。客ではなく、店員が注文の店を間違えた、という理解で、電話番号は場所の住所としてとらえられている。全体的な理解度がいま一つである。
- ・総合的には、TOEIC 500, 600クラスに比べると、詳細な情報まで聞き取れている。

#### 4.2. Part3 会話問題のディクテーション調査

前述の内容聞き取り調査に使用した同ジスクリプトで今度はディクテーション調査をする。内容聞き取りをした後、正解は示していないので、正しいスクリプトを知らないままに、学生はディクテーションを行っている。

##### 4.2.1. ディクテーション

聞き取りのゲームを行った同ジスクリプトの CD を流し、一文ずつ止めて書き取る。学生に配布したディクテーションの用紙は下記のものである。「素材の発音分析」の項で詳しく述べるが、できるだけ、連続した音節の聞き取りが調査できるように、そして学生が書き取りやすい範囲の長さで単語を抜くように調整して、作成している。

ディクテーションフォーム

(W-Br) Excuse me. I'm here for \_\_\_\_\_.

It was \_\_\_\_\_ and \_\_\_\_\_.

(M-Ca) Hmm... I \_\_\_\_\_ have \_\_\_\_\_.

Did you \_\_\_\_\_ or did you \_\_\_\_\_?

(W-Br) I called about \_\_\_\_\_.

I have \_\_\_\_\_ on my \_\_\_\_\_.

It's 555-0198, right?

(M-Ca) No. That's our \_\_\_\_\_ Street \_\_\_\_\_.

They're \_\_\_\_\_ . Follow this street to Sullivan

then \_\_\_\_\_ at \_\_\_\_\_.

It's about \_\_\_\_\_.

#### 4.2.2. 素材の発音分析

調査に使用した Part3 のスクリプトを IPA の発音記号に変えたものが下記である。一つ一つ個別に単語を発音した時と文章として流れの中で発音した時では発音が変わってくる単語が多い。次に来る音に影響を受けて語尾音が変化したり、前の単語の語尾とつながって語頭音が変化したりするのである。実際にリスニングで聞く音は単語に分かれておらず、連続した音の集合体である。よって素材のスクリプトを IPA の発音表記に変換し、実際に聞こえてくる音として記し分析する。

TOEIC Part3 IPA スクリプト

ekskju:zmi

aɪmhɪəfəmaɪlɒntʃɔ:dʒ:

ɪʔwɒztʃɪkɪpsu:pəndəmi:kstvedʒɪtəbɪsaləd

m:aɪdəntəvəɪkə-dəvðəro:ɪə

dɪdʒɪ'kɑ:ləso:ɪdɪʒɪ'meɪkɪə-ɪo:ɪə-ɪənlam

aɪkɔ:lɪdəbətənaʊəɪəgəʊ

aɪhævðənʌmbəhɪəməɪməʊbaɪfəʊn

ɪtsfaɪəfəɪəfəɪə zɪəʊwʌnaɪnɪt ɪaɪt

nəʊðætʃəʊəʊsʌlɪvɪstri:tloʊkɪŋ

ðəˈdʒʌstəfu:blʌksəweɪ

fəloʊðɪstri:təsʌlɪvɪŋ ðentəˈnleɪtəðɪntəˈsekʃn

ɪtsəbaʊtˈhɑ:fweɪdaʊndəblʌk

このトランスクリプトを見ると、後ろに来る音によって前の語の語尾の発音が変化しているものがいくつか見られる。以下に例を挙げる。

- ・ **that order** [ðæt ɔːrə] の **that** の **t** の音は、**a** と **o** の二つの母音に挟まれることによってフラップ音 [ɾ] に変わる。
- ・ **call us** [kɑ:ləs] 後ろに母音 ə が来ることにより、**l** の音が [クリア l] に変わる。
- ・ **make your** [meɪkəɹ] **your** が後ろに来ることにより、**k** と **y** の音がつながり、[ kəɹ ] の音に変わる。
- ・ **hour ago** [aʊəɹəɡəʊ] 話者はイギリス人であるため、通常 **hour** は [ aʊə ] と発音されるが、**ago** の母音が入ると [ ɹ ] の音が追加され [aʊəɹəɡəʊ] と発音される。
- ・ **the intersection** [ðɪntəˈsekʃn] **the** の [ ɪ ] の発音と **intersection** の [ ɪ ] の発音が同じなので、一つに合わさって [ ðɪntəˈsekʃn ] と発音される。

このように、後ろに来る単語によって、前の単語の語尾の発音が変わるものは、リスト表示するときに分けずに、一つのフレーズとして調査している。

#### 4.2.3. Part3 学生のディクテーションの結果

次の表は、TOEIC スコアレンジ別に、どれくらいの割合の学生が各単語やフレーズを聞き違えているかをパーセンテージで表したものである。まったく間違えていない場合は空欄となっている。

表4. Part3問題の TOEIC スコア別ディクテーション結果

No.	Word	発音 (IPA)	TOEIC 300台(%)	TOEIC 400台(%)	TOEIC 500台(%)	TOEIC 600台(%)
1	my	maɪ	13			
2	lunch	lʌntʃ				
3	order	ɔ:dɜ:				
4	chicken	tʃɪkən				
5	soup	su:p				
6	a	ə	25	30	75	40
7	mixed	mɪkst	100	100	75	100
8	vegetable	vedʒɪtəbl̩		30		
9	salad	sələd		10		
10	don't	dɒnt̩	25	10		
11	a	ə	75	30		
12	record	ˌrekərd	13	20	25	
13	of	əv	88	90	50	80
14	that order	ðətəʊrə	88	80	50	
15	call us	kɑ:ləs	38	30		
16	make your	meɪkʰjə	75	90	50	
17	order	ɔ:rə	88	60	25	20
18	online	ɒnlaɪn	25	10		
19	an	ən	25	30	50	
20	hour ago	aʊəɹəgəʊ	13		25	
21	the	ðə	50	70	25	20
22	number	nʌmbə	63	10		
23	here	hɪə	88	60	25	
24	mobile	məʊbaɪl̩	50	30	50	20
25	phone	fəʊn			25	
26	Sullivan	sʌlɪvən	50	60	29	20
27	location	ləʊkeɪʃən		20		
28	just	dʒʌst	63	60	50	
29	a	ə	50	80	50	20
30	few	fju:	50	60	25	
31	blocks	blɒks	75	50	25	
32	away	əweɪ	38	10	25	
33	follow	fə'ləʊ	50	20		
34	turn	tɜ:n	63	50	14	20

35	left	left	63	50		
36	the intersection	ðɪntəˈseɪʃn	75	50	50	20
37	halfway	hɑːfweɪ	75	20	75	20
38	down	daʊn	75	70	25	40
39	the	ðə	50	50	50	60
40	block	blɑːk	75	30	25	

#### 4.2.4. Part3 ディクテーション結果の考察

- ・当然の結果であるが、TOEIC スコアが高いグループほど正確に聞き取れた単語数が多くなっている。以下が TOEIC スコアレンジごとにミス の数をまとめた表である。

表5. Part3問題における TOEIC スコアレンジごとの誤りの数の平均数

	300	400	500	600	合計
ディクテーションに誤りのあった単語フレーズ	32/40	33/40	26/40	13/40	36/40
誤りの数の平均	13.75	14.9	10.75	10.60	12.3

- ・ TOEIC 500, 600点台の学生は、フレーズごとに聞き取って理解している傾向が伺える。例えば、“my lunch order”, “chicken soup” “vegetable salad” “a record” “an hour ago” “just a few blocks away”などを一つのかたまりとして正確に聞き取っている。一方300, 400点台のグループは、まとまった一つのフレーズとしての理解ができていないため、個々の単語をバラバラに間違えてしまう傾向がある。
- ・ TOEIC 300, 400点台の学生は、名詞や動詞などの **content word** も前置詞や冠詞などの機能語、**function word** もどちらも間違えが多いが、スコアレンジが上がるにつれて、**content word** のミスが少なくなってくる。
- ・ “of” “just” “a” “the”などの **function word** に関しては、**content word** に比べ弱く発音されるため、スコアレンジの低いグループはミスが多く、スコアレンジが高くなるにつれて聞き取り率が上がってくるが、それでも **content word** に比べるとミスが多い。

#### 4.3. Part4 アナウンス問題の内容聞き取り調査

まず Part4のアナウンスを1回聞いて、どのように内容を理解したかを調査した。調査に使ったスクリプトと、学生のグループごとに把握した内容を下記に示す。

#### 4.3.1. スクリプト (Part4, Test1, Question 98-100)

(W-Am)

Now, if you'll all come over here, I'll show you where you'll be working. OK, this is the quality control station here at the button factory. Your first job will be to stand next to the conveyor belt and inspect the buttons as they pass by. You'll be looking for any defective buttons - you know, the ones that are the wrong shapes or colors, and the ones that are broken. Now, don't worry - it takes practice to be able to pick out the buttons that should be discarded. That's why you'll be working alongside some of our more experienced employees for the next three days. It'll be their job to train you and to point out any of the defective items that you missed.

#### 4.3.2. スクリプト和訳

(女性—アメリカ)

さあ皆さん、こちらへきていただけますか。皆さんが仕事をするところになる場所を案内します。いいですか、ここはこのボタン工場の品質管理室です。皆さんの最初の仕事は、ベルトコンベア一横に立ち、ボタンが通過するときにそれを点検することです。欠陥のあるボタン、つまり適切でない形や色のもの、また、壊れているものを探します。でも心配はいりません。捨てるべきボタンを見つけ出せるようになるには訓練を要します。ですからこの3日間は、ベテラン従業員の横に並んで仕事をする事になっています。皆さんを訓練し、皆さんが見つけた欠陥品を指摘することが彼らの仕事です。

#### 4.3.3. 内容聞き取りの結果

以下の記述は、各グループがホワイトボードに書いたままを記している。間違っている聞き取り内容には下線をひいた。

#### Cクラス (TOEIC 500点を目指すクラス) 結果

表6. Part4の聞き取り問題におけるCクラスのチームごとの記述

チーム	聞き取った内容 (下線は間違っているもの)
チームお弁当	駅、 <u>修理の人</u> 、 <u>機械を修理</u> 、 <u>色を付けよう</u> 、3日間で



チームバーガー	カラーコントロール、ステーションファクトリー、新人、 <u>洋服の仕立て直し</u> （色、ボタン、スカート）、 <u>3days</u> 、新人育成
チームメガネ	駅、工場の人、工場（ボタン？）、 <u>迎えに行く</u> 3日間
チームコンタクト	工場ステーション、新入社員、 <u>いろんな色と形のボタンを作る</u> 、 <u>いろいろ直す</u> （3日で）
チームカラフル	工場、働きたい人、 <u>何かして色を付けてこわす</u> 、3日間経験豊富な人が教える。
チームデニム	コントロールステーション、工場で働いている人、 <u>ジムでシェイプアップ</u> 、 <u>道具で骨折</u> 、 <u>3日後経験させてくれる</u>

### Cクラスの聞き取りに関する考察

- ・どのチームも、単語はいくつか聞き取れているが、全体的な流れや意味がきちんと把握されていない。単語から想像を働かせて、独創的なシチュエーションを作り上げている。日常的に経験するシチュエーションでの会話をモチーフにした Part3に比べて、工場での新人研修という短大生が普段経験したことのないシチュエーションでのアナウンスであるため、全体の把握が難しかったようである。
- ・“the quality control station”の station を「駅」だと思ったグループは、「工場の中の品質管理室」で行われているアナウンスであるという状況把握がしにくくなっている。
- ・場所を示す“button factory”の“button”[bʌ?n]が聞き取れなかったチームが多い。日本語のボタンの発音と英語の [bʌ?n] の発音はかなり違い、特に日本語にはない?の音が入ってくるため、理解できなかったチームが多かった。
- ・チームお弁当は、“broken”から機械の修理を想像したようである。“color”を聞き取って、色を付ける作業だと推測している。
- ・チームバーガーは、“quality control”を“color control”に聞き違えている。“discarded”は最後の音節から似た単語の “skirt”と聞こえたようで、“color” “button” “skirt”の単語から、「洋服の仕立て直し」という解釈になっている。
- ・チームメガネは、“pick out”を“pick up”と勘違いしていて、迎えに行くという解釈をしている。
- ・チームコンタクトは、場所やアナウンスの聞き手に関しては把握しているが、“buttons” “shapes” “colors”などの単語から、「いろんな色と形のボタンを作る」「broken” “working”などから「いろいろ直す」という解釈をしている。
- ・チームカラフルも、場所やアナウンスを聞いている人、そして、「最後の3日間経験豊富な人

が教える」というインフォメーションはよく聞き取れている。しかし作業の内容が、理解されていない。“color” “broken”などから、「何かして色を付けてこわす」という解釈になっている。

- ・チームデニムは、“wrong shapes”からジムでの“shape up”を想像したようである。そして“broken”から「道具で骨折」「for the next three days”は期間を表すが、3日後という期日として解釈されている。

## B クラス (TOEIC 600点を目指すクラス) 結果

表7. Part4の聞き取り問題における B クラスのチームごとの記述

チーム	聞き取った内容 (下線は間違っているもの)
チームみそ	If you, control station, first job, color, shape, Don't worry, <u>broken skirt</u> , <u>bottoms</u> , experience, employee, next three days, item
チームしょうゆ	first job, next to, three days, looking for, employee, color, shape, items, broken, pick out
チーム塩	first job, long shape, color, ボトム、スカート、ボタン、welcome, broken, experience, don't worry, factory, devise
チームとんこつ	洋服, first job, station, <u>long shape</u> , <u>bottom</u> , color, next three days, experience, broken, Don't worry

## B クラス考察

- ・このクラスは、全体的な話の内容が把握できなかったということで、どのチームも聞き取れた単語やフレーズだけを羅列した。
- ・このスクリプトのキーワードである“button”を聞き取っているチームは1チームのみ、チーム塩だけである。そのほかのチームは、“bottoms”や“bottom”と聞き取っている。“button”は単複を含め、スクリプトの中に4回登場するため、チーム塩はある時はボタン、ある時はボトムと聞き取っている。
- ・難易度が高いと思われる“discarded”を正しく聞き取れたチームはなく、チームみそは“broken skirt”，チーム塩は“スカート”と聞き取っている。
- ・チームとんこつは、“wrong shape”を“long shape”と解釈している。

## A クラス (TOEIC 700点を旨指すクラス) 結果

表8. Part4の聞き取り問題における A クラスのチームごとの記述

チーム	聞き取った内容 (下線は間違っているもの)
チームエアライン	仕事内容の説明、ボタン工場、ベルトコンベアに流れてる、 ボタンを形が違うのや壊れたものを拾う作業 最初の3日間は経験のある従業員と一緒にする
チーム女子力	新人研修、 <u>コール</u> なんとかコントロール <u>Color</u> ボタン、 <u>shape</u> , <u>3days</u> , トレーニング、 <u>experiences</u>
チーム江戸っ子	meeting, first job, button, shape, color, defective, broken, Don't worry → experienced employee! Should be <u>discurted</u> , next three days
チームビビンバ	Show your working place, first job, <u>over come</u> factory, color, broken, employee, Looking for <u>different</u> , don't worry <u>ship</u> , 3day トレーニング、 experience

## A クラスの聞き取りに関する考察

- ・このクラスでは、4つのチームのうち、3つが“button”を聞き取れている。
- ・チームエアラインは、全体の内容を正しく聞き取って理解している。
- ・チーム女子力は、“quality”がコールに聞こえている。
- ・チーム江戸っ子は、“discarded”を聞き取っているが、[ diskardɪd ]の[d]の音を[t]と聞き取っている。[d]は有声の破裂音で上の歯茎につけた舌先を離しながら発音するが、[t]は無声の破裂音で、上の歯茎につけた舌先を離しながら息を吐くことで無声化する。非常に短く発音され、かつ有声か無声かの違いしかないため、非常に区別しにくい音である。
- ・チームビビンバは、“defective”を“different”, “shape”を“ship”, “come over”を“over come”と聞き取っている。聞こえた音を自分の知っている単語に置き換えて考える傾向はディクテーションをすると顕著に表れる。

## 4.4. Part4 アナウンス問題のディクテーション調査

Part3同様に、Part4でも内容聞き取り調査に使用したものと同ジスクリプトでディクテーション調査をした。内容の聞き取りをした後、正解は示していないので、正しいスクリプトを知らないままに、学生はディクテーションを行っている。

#### 4.4.1. ディクテーション

聞き取りのゲームを行った同ジスクリプトの CD を流し、一文ずつ止めて書きとる。学生に配布したディクテーション用紙は下記のものである。

ディクテーションフォーム

(W-Am)

Now, \_\_\_\_\_, I'll show you where you'll be \_\_\_\_\_.

OK, this is the \_\_\_\_\_ here at

the \_\_\_\_\_. \_\_\_\_\_ will be to stand

and \_\_\_\_\_ the \_\_\_\_\_ as they pass by. You'll be looking for any

- you know, the ones that are the \_\_\_\_\_ or \_\_\_\_\_, and the ones that

are \_\_\_\_\_. Now, don't worry - it takes \_\_\_\_\_ to be able to \_\_\_\_\_ out the \_\_\_\_\_ that

should be \_\_\_\_\_. That's why you'll \_\_\_\_\_ alongside

\_\_\_\_\_ employees for the next

\_\_\_\_\_ days. It'll be their job to \_\_\_\_\_ you and to \_\_\_\_\_

any of the \_\_\_\_\_ items that you \_\_\_\_\_.

#### 4.4.2. 素材の発音分析

調査に使用した TOEIC Part4 アナウンス問題のスクリプトを IPA の発音記号に変えたものを下記に示す。

TOEIC Part4 IPA スクリプト

naʊ ɪf u: ɪʔɑ: ɪkəmou və hɪə ʔaɪfsoʊ ju: weɪ ju: ɪbəwə kɪŋ

əkeɪdɪsəzðəkʷalɪti: kɪtɪoʊstɛɪfɪŋhɪə.ɪtðəbʌʔɪfæktɪi:

jəfəstɔ̃zɪbwəbi:təstændnekstəðəkənveɪjəbeɪt

ændɪnspektðəbʌʔɪzæzðeɪpæsbaɪ

ju: ɪbəlɔkɪŋfəʔeni:dɪfektɪv bʌʔɪz ju:nou

ðəwʌnzðæɾəðə.ɪŋfɛɪpsəkləz

ændðəwʌnzðæɾəbɪoʊkɪŋ

naudountwɑ:i: ɪteɪkspjækɪstəbæɪbɪtəpɪkaʊt  
 ðəbʌʔɪzðætʃʊd̩bədɪskaɪdɪd  
 ðætswaɪ ju:ɪbəwəkiŋəlɪŋsaɪd sʌmənəməɪekspɪəriənst  
 ɛmplɔɪ:zɪfəðənekstθɪ:deɪz  
 ɪtʰbi:ðeə-dʒʌbtətɪemju: ændtəpɔɪntʃaʊt  
 ɛni:əvðədɪfektɪvareɪmz ðæʔju:mɪst

- ・まず冒頭の“if you’ll”であるが、if の f [f] の音が、後ろに you の y[u] という音が来ることによって、[f] という音に変化する。そして、will の短縮形の“ll”も、you と一つの音として [u:lʔ] と発音されるため、“if you’ll”までをひとつの音として分析する。
- ・“point out” [pɔɪntʃaʊt] も“out” [aʊt] の母音が来ることによって、“point”の語末の [t] の音が [tʰ] に変わる。よって point out を一つの項目として調査する。

#### 4.4.3. Part4 学生のディクテーションの結果

次の表は、TOEIC スコアレンジ別に、どれくらいの割合の学生が各単語やフレーズを聞き違えているかをパーセンテージで表したものである。まったく間違えていない場合は空欄となっている。

表9. Part4問題の TOEIC スコア別ディクテーション結果

No.	単語、フレーズ	発音 (IPA)	TOEIC 300台(%)	TOEIC 400台(%)	TOEIC 500台(%)	TOEIC 600台(%)
1	if you’ll	ɪfʊ:lʔ	100	100	100	83
2	all	ɑ:l	75	10		16
3	come	kəm	38	10		16
4	over	oʊvə	50	20		
5	here	hɪəʔ	25			
6	working	wəkiŋ	13	10		
7	quality	kʰɑ:lɪti:	100	100	100	50
8	control	kŋtɪoʊl	63	70	25	16
9	station	steɪʃŋ	13	30	25	
10	button	bʌʔŋ	75	80	75	
11	factory	fæktɪi:	50	40	25	50
12	your	jə	25	10		

13	first	fə-st	25			
14	job	dʒɒb				
15	nextto	nekstə	50	50	50	33
16	the	ðə	38	60	75	33
17	conveyor	kənveɪjə	100	100	100	66
18	belt	beɪt	75	100	100	83
19	inspect	ɪnspekt̃	75	100	100	66
20	buttons	bʌʔn̩z	75	80	75	33
21	defective	dɪfektɪv	63	40	25	16
22	buttons	bʌʔn̩z̥	38	70	25	
23	wrong	ɹɒŋ	50	90	75	16
24	shapes	ʃeɪps	38	10	50	16
25	colors	kʌləz	25	60	50	33
26	broken	bɹoʊkən				
27	practice	pɹæktɪs	38	20	25	33
28	pick	pɪk	50	20	12	16
29	buttons	bʌʔn̩z	63	60	75	33
30	discarded	dɪskɑːɪdɪd	88	70	100	66
31	be	bə	13			16
32	working	wəːkɪŋ	75	20	25	33
33	some	sʌm	63	80	25	
34	of	əv	75	80	25	16
35	our	ə	100	90	100	66
36	more	mɔːe	75	80	25	33
37	experienced	eksprɪəɪnst	88	90	25	66
38	three	θɹiː				
39	train	tɹeɪn	25	30	50	
40	point out	pɔɪnt aʊt	13	10	25	
41	defective	dɪfektɪv	50	50	25	33
42	missed	mɪst	88	20	50	33

#### 4.4.4. Part4 ディクテーション結果の考察

・以下にスコアレンジグループごとの誤りの平均値を示す。パート3より全体的にミスが多くなっている。これは、単語に難解なものが含まれていることと、新人研修というシチュエーションが学生にとってなじみがないためと考えられる。

表10. Part4問題における TOEIC スコアレンジごとの誤りの数の平均値

	300	400	500	600	合計
ディクテーションに誤りのあった単語、フレーズの数	40/42	39/42	31/42	28/42	40/42
誤りの数の平均	21.75	19	17.25	11.8	14.5

- ・まず各スコアの学生が全員聞き取れた音から分析していきたい。TOEIC 300台の学生が全員聞き取れた音は、“job”, “broken”, “three”の3つの単語である。どれも content word であり、はっきり聞こえてかつよく知っている耳慣れた音だといえる。TOEIC 400台の学生が全員聞き取れた音は、“here” “first job” “broken” “be” “three”の6つの単語で、“first job”はフレーズとして聞き取れている。500台の学生が聞き取れた音は、“all come over here”, “working”, “your first job”, “broken”, “be”, “three”である。11の単語が聞き取れている。だんだん連続して聞き取れるフレーズが長くなってきている。600台の学生が聞き取れた音は“over here”, “working”, “station”, “button”, “your first job”, “buttons”, “broken”, “some”, “three”, “train”, “point out”の15の単語である。スコアが上がるごとに当然ながら、聞き取れる単語の数が増えている。特に300, 400, 500点台の学生の75%~80%が聞き取れなかった“button”の発音を600台の学生は全員聞き取れている。この“button”という単語は、このスクリプトのキーワードであり、何度も登場するので、この音が聞き取れているか否かは全体のスクリプトの理解に大きな影響を及ぼす。また、“buttons”と複数になった場合も、最後の複数の [z] の音が聞き取れている。それに加え、content word だけではなく、function word である“some”も全員聞き取れていることは特筆に値する。
- ・No.10の“button”[bʌʔn]にはグロツタルストップ[ʔ]の音が含まれるため、日本人の耳には聞きづらい。語末の[n]の音も [m] と混同しやすい。また日本語のボタンは3音節であるが、“button”は2音節になるため、それもわかりづらい。300~500台の学生は、“bottom”や“baton”と勘違いした学生も多かった。
- ・No.19の“inspect”を“expect”と表記した学生が非常に多かった。400, 500台の学生は全員“inspect”が正確に聞き取れていない。これは、“and inspect”[ændɪnspekʔt]と連続して発音されるときに、“and”の[d]と“inspect”の[ɪ]がリエゾンされるため、[m]の部分が認識されにくく、語末の“spect”[spekʔt]が目立って聞こえる。そのため、学生が知っている単語から、語末に“spect”が来る、“expect”を表記している学生が多いと推察できる。
- ・冒頭の“if you’ll”は300~500台の学生が全員 will の短縮形“ll”の部分、つまり[lʔ]の音を聞き

取れていない。あるいは“are”と書いている学生もいた。非常に短く発音されるため、聞き逃しやすい音である。ただこのスクリプトの中では、特に内容の聞き取りには影響を及ぼさない。

- ・ No.17, 18の“conveyor belt”は、日本では「ベルトコンベヤー」と呼ばれて、語順が逆になっているが、比較的理解しやすい単語だと思っていた。しかし300, 400, 500台の学生は全員がこの単語を聞き取れていない。原因としては、ベルトコンベヤーが、子音+母音の組み合わせで“berutoconbeya-”と発音されるのに対し、“conveyor belt”[kənveɪjəbɛlt]には、二重母音[eɪ]が含まれていて、コンベヤーと聞こえることと、日本語のコンベヤーが5拍なのに対し、“conveyor”は3拍で発音されることで、まったく違う単語として認識されるのかもしれない。
- ・ No.30の“discarded”[dɪskɑːrdɪd]は、300, 400, 500, 600すべてのスコアランクで聞き取れない学生が多かった。理由としては、この単語自体を知らない学生が多かったことと、“skirt”[skɑːt]と勘違いした学生が多かった事があげられる。前述したように、/d/と/t/の発音は破裂音で似ているため、“discard”の語末が/t/の音であると誤認した学生も多かったようである。
- ・ 全体的に聞き取り率が悪かった語の一つに35番の“our”があげられる。この単語は“some of our more experienced employees”の中に出てくるのだが、[ə]と弱く省略されて発音されるため、通常のour[aʊr]という音とは異なる。
- ・ 聞き取りが300, 400, 500, 600ときれいに分かれた単語としてはfunction wordの“of”があげられる。この音は[əv]であるが、ほとんどの前置詞がそうであるように、“of”もはっきり発音されないため、聞き取りが難しいが、600点台のスコアレンジの学生は一人を除いて全員聞き取れていた。ここら辺にリスニング力の違いが表れている。
- ・ 全体的に、content wordは強くはっきり発音されるため聞き取りやすく、function wordはreduceされることが多くて聞き取りにくいというのは、Part3と同じである。

## 5. 学生のコメント

### 5.1. TOEIC 300点台の学生

- ・ Part4は、知らない単語が多く、難しかった。一度聞き逃すと、文全体がわからなくなる。edやsも聞き取れなかった。
- ・ パート3は内容も把握しやすかったし、わかりやすい単語が多くて聞き取りはできました。パ



ート4は、内容が全く分かりませんでした。単語が難しいのと、読むスピードが速いように感じました。

- ・ 最初の内容の聞き取りは、知っている単語が聞こえると、文章を聞き終わっても頭に残っているが、知らない単語や、you'll などの省略した単語はわからなかった。ディクテーションは、wrong が long に聞こえていたり、スペルミスをしていた。
- ・ 思った以上に聞き取れなかった。男性と女性だと女性の声の方が聞き取りづらい。ボタンの発音が「バトン」と聞こえたり、知っている単語なのに文章の中で発音されるとわからなくなる。
- ・ 言葉がつながっていると、簡単な単語でも聞き取りにくかったです。パート3よりパート4の問題が難しく感じました。ディクテーションは、一つの単語を覚えながら次の単語を聞いて書くのが大変でした。
- ・ “n”や“m”など、「ん」で終わる単語は聞き取りにくいと思います。“you'll”なども聞き取りにくく“you are”に聞こえます。単語は特にあまりなじみがないものだと聞き取りにくいのかなと思いました。
- ・ 一つ聞き取れない単語があつてなんだろうと考えていると、どんどん話が進んでしまって全体の内容がわからなくなります。パート4の方がパート3より難しかったです。ディクテーションをやると、リスニング力がつくと思いました。
- ・ パート3のカナダの男性の声が早口でイギリスの女性より聞き取りづらく感じました。
- ・ 最初は聞き取れていても、中間くらいからわからなくなり、後半は全然意味が取れなくなります。

## 5.2. TOEIC 400点台の学生

- ・ 単語ごとにはある程度聞き取れましたが、話の内容まではとらえられず、難しかったです。自分は冠詞や ed を聞き損ねてしまうことが多いとわかりました。
- ・ the, all, over など、発音が短く省略されて発音される音は聞き取るのが難しかった。ed や s も聞き取るのが難しかった。
- ・ long とか wrong など似ている発音を区別することができなかった。文末の単語は聞き取りやすかった。
- ・ ディクテーションすることで、その後の聞き取りやすさが違った。
- ・ 空欄が何個か続いている文は全然書けませんでした。発音が似ている違う単語を書いていたたり、単語自体が聞き取れなかったりしました。今回は2回聞けたけれど、本番は1回しか聞けない

ので、もっと耳を慣らすようにしたいです。

- ・ **button** と **bottom**, **wrong** と **long** は似た発音で区別が難しかったです。 **discarded** や **defective** は単語を知らなかったのので聞き取れませんでした。
- ・ 最初からスクリプトの意味を理解していこうと思っていると、途中の文章の意味が聞き取れなくなり、結局文章全体の意味が分からなくなります。発音が似ている単語が苦手だと思いました。グループで話し合うと、「あっ、その単語あったね！」と分かち合えました。単語がいくつか聞き取れても、スクリプト全体の意味を理解できないです。
- ・ 聞き取るのが難しかったです。 **button** は **bottom**, **wrong** は **long**, **discarded** は **skirt** に聞こえてしまいました。聞き取れた単語だけでは話の流れが全然わかりませんでした。意味を知らない単語もあって分かりにくかったです。
- ・ ボトムスとボタンの発音が難しかったです。冠詞は聞き逃しやすいです。過去形の **ed** や濁音が聞こえないです。
- ・ 全体的に聞こえてくる音がほとんど頭を右から左に流れて行ってしまい、きちんと聞き取れなかった。特に長い文章だと前半に注意していると後半を聞き逃し、後半に注意していると、前半が頭に入ってこなくてとても難しかった。単語が冠詞と一緒に発音されると、違う音に聞こえた。
- ・ 男性の声が聞き取りにくいと感じました。パート3は身近な話題だったので推測しやすかったけれど、パート4は推測しにくくて難しいと思った。
- ・ 冠詞の“**a**”と“**the**”は全部間違えました。 **ed** や **s** も聞こえなくて、似た発音の **wrong** と **long** も間違えました。つながって発音する単語や知らない単語は聞き取るのが難しいと思いました。

### 5.3. TOEIC 500点台の学生

- ・ パート4に関しては、ボトムスの工場だと思い込んでいたら、ボタンの工場で、解答を見たときひっくり返りそうでした。思い込みって怖いものですね。聞き取りづらかったのは、冠詞、前置詞、動詞の時制 (**ed**) です。あと、意味を知らない単語は何回聞いてもわからないと思いました。

### 5.4. TOEIC 600点台の学生

- ・ パート3は全体的に聞き取れたが、パート4は内容を把握するのが難しかった。 **discarded** など、わからない単語があったせいでもあると思う。ディクテーションは、 **ed** や **s**, **ll** が抜けてしま

っていた。

- ・ディクテーションはけっこう楽しかった。自分ではあっていると思っていたのに、II が抜けていたり、ed が抜けていたりした。2回聞いても聞き取りにくい単語もあった。自分が聞き取れていない単語がわかるので、これを続けていくと、リスニング力が上がると思う。

## 6. おわりに

今回の調査によって、TOEIC スコアレンジごとにリスニングスキルを比較分析することにより、以下の傾向が見えてきた。

第一に、スコアが低いグループは、正確に聞き取れる **content word** の数が少ないことによって、全体の内容把握が曖昧になり、想像を働かせて内容を推察することになる。想像の部分が大きければ大きいほど、内容が実際のスクリプトとはかけ離れてくる。特にスクリプトが学習者が日常経験していないような内容だと推察が難しくなる傾向がある。それに加え、**function word** の聞き取りができないことで、**content word** 同士の関係の把握が曖昧になってしまう。

第二に、スコアの低いグループはスコアの高いグループより、チャンクで文章をとらえるスキルが低い。一つ一つの単語を聞き取ろうとするあまり、スピードについていけず、文章すべての意味が分からなくなってしまうケースが多い。逆にスコアの高いグループは、文章を句ごとにとらえながら理解しているので、文章全体の意味、ひいてはスクリプト全体の流れを把握しやすくなっている。

第三に、スコアの低いグループは、英語のイントネーションやリズムに慣れておらず、日本語のそれとは違うという認識ができていない。日本語はイントネーションがフラットで、子音と母音の組み合わせで発音される一つ一つの音をはっきり発音するが、英語は、文章として流れの中で発音されるときに **reduce** される音が多い。単語単体として発音される場合と音が変わってしまう。例えば、**will** の短縮形の“**ll**”や“**ed**”なども **reduce** される発音であるため、時制が未来なのか過去なのかかわからず、全体的な時の感覚がつかめない原因になっている。この **reduce** された音の聞き取りは、スコアが高いグループでも難易度が高い。例えば、ディクテーションにおいて、“**if you'll**”が聞き取れなかった学生のパーセンテージは、TOEIC 300, 400, 500台で100%、600台で83%という結果が出ている。

この調査を踏まえ、リスニング対策としては、一つ一つの単語の意味と発音をバラバラに覚え

るよりは、一定の長さのフレーズや句を発音とともに覚えることが有効だと考えられる。ほかの単語とセットになると、語頭や語尾の発音が変わったり、発音が **reduce** される場合が多いため、より多くの語と語の音のつながりのパターンを脳の中にデータとして蓄積していくことが大切である。その訓練により長いフレーズや文章の理解が可能になり、それが全体のスクリプト理解につながっていく。TOEIC のリスニング素材を使って、その会話文やアナウンスを意味ごとのチャンクに分けて暗唱し、そこからスクリプト全体の暗唱につなげていくことで、より長い英文の連続パターンを脳に蓄積させていくことも、リスニング対策に有効だと思われる。

#### 参考文献

1. TOEIC Worldwide Report2013  
([http://www.toeic.or.jp/library/toeic\\_data/toeic/pdf/data/Worldwide.pdf](http://www.toeic.or.jp/library/toeic_data/toeic/pdf/data/Worldwide.pdf))
2. 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEICテスト公式問題集 Vol.6, 2014
3. Steven Pinker. *The Language Instinct, How the Mind Creates Language*. Perennial, 1994.
4. Ethnologue Languages of the World <https://www.ethnologue.com/statistics/family>
5. The sounds of english and the International Phonetic Alphabet  
<http://www.antimoon.com/how/pronunc-soundsipa.htm>
6. Harriette Garden Grate. *English Pronunciation Exercises for Japanese students*. Rentice-Hall, Inc, 1974.
7. Peter Avery, susan Ehrlich. *Teaching American English Pronunciation*. Oxford University Press, 1992.